

博物館の浮世絵展

歌川派と歌舞伎

—勇壮なる役者絵の世界—
会期 平成27年2月10日(火)～4月6日(月)



▶三代歌川豊国「児雷也豪傑譚語 八代目市川團十郎の児雷也、二代目市川九蔵の富貴太郎」
大判錦絵二枚続 嘉永5(1852)年 当館蔵

歌舞伎の舞台や役者の姿を描く役者絵は、吉原などの女性を描く美人画とともに多くの絵師たちによって描き続けられてきた。浮世絵のメインジャンルの一つです。そこに描かれた勇壮な歌舞伎役者たちの姿や舞台の情景は、江戸時代の人々が熱狂した歌舞伎の文化を現在に伝えてくれます。そしてその役者絵で長きに渡り人気を保ち続けたのが、江戸浮世絵界の一大勢力として君臨した歌川派一門でした。

今回の浮世絵展では、当館に収蔵されている浮世絵の中から新たに版元やタイトルなどの情報を整理し、公開が可能になった役者絵を中心に展示します。武者絵など迫力のある人物像で近年、特に注目されている歌川国芳や、幕末の浮世絵界を代表する三代歌川豊国(歌川国貞)、さらに両者の師である初代豊国や、彼らの弟子たちをはじめとする歌川派一門の絵師たちの役者絵を見ていくことで、描かれた各時代の歌舞伎文化の様相とともに、歌川派役者絵の継承と発展を追います。



▶「流行猫の戯 道行猫柳屋月影(はやりねこのたむむれ みちゆきねこやなきさかりのつきかげ)」
歌川国芳画、山東京山文 大判錦絵 弘化4(嘉永4(1847)～1851)年頃 当館蔵

足立区立郷土博物館だより 66

平成26(2014)年4月
ADACHI MUSEUM
足立区立郷土博物館

平成26年度の展示のお知らせ

特別展 物流のひみつ—モノを運ぶ歴史と文化—

会期 10月21日(火)～平成27年1月12日(月・祝)



江戸時代に千住が宿場町として栄えた時代から、足立は物流の拠点として発展してきました。舟や大八車から鉄道やトラックへ、輸送の形態は移り変わっていきましたが、江戸時代の千住市場から現代のトラックターミナルまで、物流は足立の繁栄を支えてきました。

今回の特別展では、市場の繁栄や、船やクルマなどの輸送手段の歴史、見事な梱包の工夫などから、足立が誇る物流の秘密に迫ります。

▲楊斎延「東京大伝馬塩町十式番地 日本運輸会社」明治20(1887)年頃 当館蔵
明治時代の運輸会社を描いた浮世絵です。梱包された荷物が山型に積み上げられています。梱包手前には車力職が押す大八車と、車夫が引く人力車が描写されています。

企画展 明治という夢

—祈りと戦いの足立—

会期 6月24日(火)～9月7日(日)

明治時代は、今日の私たちの生活につながる様々な文化や価値観が登場してきた時代です。ある人は世界に通用する大きな会社の設立を望み、またある人は学問の世界に身を置きました。



▲トラック運送

昭和33(1958)年の千住の様子です。この頃になると、自動車貨物輸送の主役になっていきました。



▲「戦役を記念した絵馬」伊興氷川神社所蔵
区内の神社には、日清・日露の戦役を記念した絵馬が約40点奉納されています。



博物館だより No. 66

平成26(2014)年4月 発行

登録番号25-296

「美しいまち」は「安全なまち」
ビューティフル・ウィンドウズ運動展開中

再生紙を使用しています。

利用案内

開館時間 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、年末年始
入館料 一般200円(高校生以上)
団体(20名以上)は半額
70歳以上は無料。障がい者手帳保持者およびその介護者1名は無料。
5月5日・5月18日・10月1日・11月3日は無料公開日
第2・第3土曜日は無料公開日
交通案内 JR 亀有駅北口
東武バス 八潮駅南口行(足立郷土博物館) 下車 徒歩1分
六ツ木都住行(東酒江庭園) 下車 徒歩4分
千代田線綾瀬駅西口
東武バス 六ツ木都住行(東酒江庭園) 下車 徒歩4分
駐車場有

足立区立郷土博物館

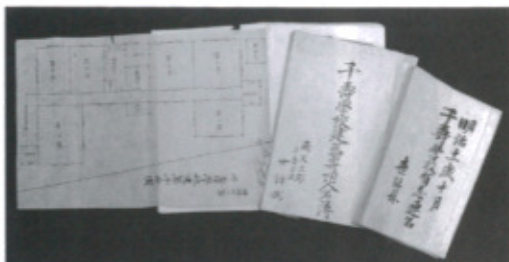
〒120-0001 東京都足立区大谷田5-20-1
TEL (03)3620-9393 FAX (03)5697-6562
<http://www.city.adachi.tokyo.jp/hakubutsukan/chiikibunka/hakubutsukan/index.html>

そして明治時代は、西洋の列強に追いつけ、追い越せという気運高まる熱い時代であり、やがて日本は日清・日露戦争という、はじめての国際戦争を体験していくこととなります。

今回の企画展では、「日本の近代化の出発点である〈明治〉という時代を、足立の人々ほどのように生きたのか」をテーマにして紹介します。知られざる明治の足立を、博物館でぜひご覧ください。



▲「軍隊服装精図(部分)」当館蔵



▲千寿学校建築に関する古文書
千寿学校は、明治11(1878)年に移転新築し、明治19年に千寿尋常小学校になりました。近代的な教育制度も整えられた時代です。

幕末の新撰組の活躍から日清・日露戦争期にいたる激動の50年間。足立の人びとはどのように過ごしたのか!?残された当時の資料をもとに紹介します!

博物館からのお知らせ

◆郷土芸能鑑賞会

開催日 平成26年5月5日(月・祝)
11月3日(月・祝)
平成27年1月10日(土)
時間 各日午前11時より
会場 郷土博物館 中庭
足立区郷土芸能保存会の皆さんが、お囃子や獅子舞などをご披露します。開催日はいずれも博物館の無料公開日です。



▲花畑大鷲神社神太鼓の皆さんによる演奏

ミニ展示 記憶になったお化け煙突

会期 9月21日(日)～10月5日(日)
解体50年

大正15(1926)年に建設された千住火力発電所の煙突は、見る場所によって煙突の数が1本から4本まで変化して見えることから、「お化け煙突」の愛称で親しまれました。その特色ある姿は絶好の被写体となり、映画にも登場しました。老朽化などの理由により、千住火力発電所は昭和38(1963)年に廃止となり、翌39年にはお化け煙突は解体され、今年で50年となります。このミニ展示では、さまざまな写真や、元社員の方から御寄贈いただいた詳細な図面などから、千住のシンボルとして親しまれた「お化け煙突」の姿を皆様にご紹介します。



▶見る場所によって煙突の数が変化する「お化け煙突」は、絶好の被写体となり、多くの写真家に撮影されています。

◆春季区民教養講座

「地域史学習をどうすすめるか—足立区荒川の歴史を中心に—」
講師 金澤 利明氏
(足立区立第一中学校校長)

日時 平成26年4月20日(日)
午後1時30分から
会場 勤労福祉会館(綾瀬ブルミエ)
申込 当日直接会場へお越しください。
参加費は無料です。
※夏季は7月6日、冬季は12月14日を予定しています。

東洲江庭園のご案内

郷土博物館に隣接する東洲江庭園は、故小形研三氏が設計した野趣あふれる回遊式日本庭園です。庭園内には多くの草花があり、季節によって様々な景色が楽しめます。東洲江庭園で日本の四季の移り変わりを楽しんでみてはいかがでしょうか。



▲初夏の東洲江庭園の風景
博物館のHPでは、東洲江庭園の景色と四季の草花の様子をご紹介します。

出前展示 千住歴史大全

会期 10月25日(土)～11月10日(月)
9時～19時(日曜休・11月2日は開場)
会場 東京電機大学 東京千住キャンパス
(足立区千住旭町5) ※入場無料

江戸時代以降、商業や物流の拠点として栄えた千住の地域では、多くの文化が開花しました。そして現在でもその文化は、千住の町の人々によって受け継がれています。

「千住歴史大全」では千住の町の魅力を、歴史や文化など様々な角度からお伝えします。



▲平成25年に開催した「千住歴史大全」の様子(東京電機大学・東京千住キャンパス)。今回の展示は、昨年実施した展示の続編となります。

※平成25年にご紹介した展示のパネルについては、博物館のHP(<http://www.city.adachi.tokyo.jp/hakubutsukan/senjurekistaizen.html>)をご覧ください。

博物館の映画会

郷土博物館では、毎月第2土曜日の無料公開日に、日本各地の歴史や文化財、民俗、伝統技術などに関する映画を上映します。

各回午前11時より開始します。予約は不要です。当日直接博物館へお越しください。

○5月10日
「手の匠—日本文化をつみだすもの—」(30分)
[ボラ伝統文化振興財団所蔵作品]

○6月14日
「買茂競馬(くらへうま)」(15分)
[企画 京都市文化財保護課・製作 京都映画株式会社]

「輝く水を、次の100年に—水を育む森、水道水源林—」(20分) [製作 東京都水道局]

「くらしとつながる日本銀行」(18分)
[日本銀行所蔵作品]

○7月12日
「狂言師・三宅藤九郎」(32分)
[ボラ伝統文化振興財団所蔵作品]

「稲城市百村(もむら)の蛇より行事」(30分)
[当館所蔵作品]

○8月6日
「大里川原稲荷神社先祓舞(さきばらいまい)」(50分)
[製作 鹿角市]

○9月13日
「被災した民俗資料の保存修復—石川県穴水町指定明泉寺台燈籠—」(24分) [製作 国立民族学博物館]

「鮑(かな)じくり」(24分)
[製作 国立民族学博物館]

○10月11日
「新宮町ベタベタ踊り」(54分) [製作 高山市]

*上映作品は都合により変更する場合があります。